

i n t e g r i t y o f s p o r t
**スポーツの完全性と
スポーツ政策**

スポーツ政策におけるアンチ・ドーピング戦略を事例として

講師：**バリー・フーリハン**（英国ラフバラ大学教授）

モデレーター：**浅川伸**（日本アンチ・ドーピング機構事務局長）

日時：平成 **25** 年 **2** 月 **27** 日（水）**17** 時 **30** 分～**19** 時 **30** 分

場所：**筑波大学東京キャンパス 134 教室**

＊お申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

スポーツ政策及びアンチ・ドーピング政策における世界的権威である、英国ラフバラ大学のバリー・フーリハン（Barrie Houlihan）教授を招聘し、日本のスポーツ関係者及びスポーツ政策に関わる実務家・研究者向けのセミナーを下記のとおり実施します。

国内では、スポーツの透明性、公平性・公正性等、スポーツのガバナンスに注目が集まっていますが、同様に世界のスポーツ界ではスポーツが価値あるものとして存在するために、「スポーツの完全性 (integrity of sport)」の保全という概念が注目されています。

そして、現在、世界各国でも官民を挙げてこの「スポーツの完全性」を保全するための取り組みが始まろうとしています。その先鋒の一つとして、アンチ・ドーピング活動があります。アンチ・ドーピング活動は、競技や国の枠を越え、世界で官民が協働してスポーツの価値を守り、伝達していくという活動を展開し、世界の規程や標準の下に、各国が共通意識を持って法整備を推進している分野です。

今回のセミナーでは、グローバルなスポーツ政策の展開、スポーツ政策におけるガバナンス全般、アンチ・ドーピング戦略の重要性について話題提供いただくとともに、先日公表されたアンチ・ドーピング関連法整備に関する調査研究について講義をいただきます。グローバルなスポーツ政策やスポーツにおける 이슈から、今後の日本のスポーツ政策、ガバナンスの構築とアンチ・ドーピング施策の推進との関連について議論を深めたいと思います。奮ってご参加ください。

**参加費無料
同時通訳あり**

主催：公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構

共催：国立大学法人筑波大学

一般財団法人嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター

問い合わせ：info@100yearlegacy.org

03-5790-9656